

日本学校教育相談学会

The Japanese Association of School Counseling and Guidance

会報 JASCG

- 1◎巻頭言
- 2◎第30回全国大会の案内
- 3◎研修委員会//学会誌作成委員会//認定委員会
- 4◎先輩に聞く
- 5◎【沖縄県支部】一支部活動報告一
- 6◎中央研修会の「報告」
- 7◎広報委員会//ガイダンスカウンセラー関連情報//
災害被災者支援委員会報告
- 8◎会長コーナー//事務局より//第55号編集後記

第55号

巻頭言

私と教育相談

校内暴力がマスコミを賑わしていた時代。暴れる生徒を止めきれず、私自身が救急車で運ばれたことがあります。情熱や若さだけでは限界がありました。非行を繰り返す生徒にどう接したらよいのか、不登校の生徒にどのように声かけしたらよいのか悩みました。何度も教師を辞めようと思いましたが、同僚や家族に励まされて、仕事を続けていました。

心理学を学ぼうと教育研究所に通い始めました。生徒の気持ちを読み取り、マインドコントロールできるのではないか思ったからです。今から思うととても貧弱な発想でした。教育相談の勉強を続けるうちに自分自身の考え方や生き方を見つめ直すとてもよい機会となりました。こちらの思いを伝えようとするばかりで、相手の気持ちをていねいに聴こうとしなかった自分に気づかされました。やがて、生徒との距離が近づいていると実感するようになりました。

その後、埼玉県支部の相馬誠一先生との出会いから本学会に入りました。たくさんの方々が理論を学び実践をしていることを知り、驚くと同時にうれしくもありました。事例発表で群馬県支部の森川澄男先生から温かい励ましを受けました。本学会は、



日本学校教育相談学会事務局長 梅川康治

話をよく聴いて・受け止めてくれる方が多く、私にとって安心できる・元気を貰える素敵な居場所となりました。

やがて、学校カウンセラーの資格を取りました。校内で教育相談を担当していたので、とても誇らしくうれしかったことを覚えています。その後、教育センターの教育相談係に就きました。多くの方との出会いから、「教育相談は現状肯定からスタートする。リソースを見つける。プラスイメージを持って接する」ことを学びました。大阪府支部の梶谷健二先生から出会いの大切さを改めて教えていただきました。教育に関わる方々が安心と誇りを持てる学会であり続けますように、これからも、出会いと教育相談の大切さを守り伝えていきたいと思っています。

第30回 全国大会の案内 暖かい眼差しの輪の中で

東京大会実行委員長 山崎洋史

日本学校教育相談学会
第30回総会・研究大会
(平成30年8月)は、東京
都支部が主管し「東京
大会」として昭和女子大
学(世田谷区)に於いて、
開催されることになりま
したので、ご案内申し上げ
ます。



日本学校教育相談学会は第11回・第20回・第30
回と「10年目」を節目に、全国総会・研究大会とし
て「東京大会」が伝統的に開催されてきました。

約三分の一世紀という記念すべき本大会のテーマ
は「学校教育相談 30年の歩み—その未来を展望す
る」といたしました。

わたしたちが、日常の教育現場において地道に
積み重ねてきた実践の中にこそ、今後も激変すると
予想される教育環境に対して、多くの示唆を与える
ものが存在していると確信しております。

児童・生徒・保護者・教師・地域支援に対するエ
ビデンスに基づいた実効性のあるアプローチの蓄積
は、本学会の最大の特徴であります。理論構築・理
論実証のみのために学校教育相談を捉えるのではな
く、「観察」・「受容」・「査定」・「介入」・「改善」のル
ーティンから「成長支援」・「学修支援」を「学校連
働」させていくことこそ、本学会のエッセンスとい
うことができるでしょう。

過去、歩み続けてきた30年に及ぶ実践の蓄積から
学び、かつ、現代の学校教育相談における最新の知
見を共有し、それを基礎として来るべき未来を展望
する場となることを目指しております。次なる学校
教育相談30年に「つなぎ、つたえ、たかめて」いけ
る成果を共有できることを期待しつつ、実行委員会
一同、多くの皆様と東京大会にてお会いできること
を楽しみにしております。

学会員のみではなく同学の士をお誘いいただきま
して奮ってご参加いただけると幸いです。

是非、多くの皆様からの実践事例発表・研究(口
頭・ポスター)発表・自主シンポジウム企画を心より
お待ちしております。内容概要(予定)および発表

申し込みは次の通りです。

テーマ：学校教育相談 30年の歩み—その未来を展
望する

会場：昭和女子大学(三軒茶屋駅徒歩7分)

期日：2018年8月3日(金)～5日(日)

8月3日(金) 9:00～16:00 ワークショップ
16:30～全国支部・代表者会議

8月4日(土) 9:00～受付・開会行事・総会
11:00～文部科学省講演

11:40～記念講演 坂東眞理子
13:00～大会シンポジウム・実践事
例・研究発表・自主シンポジウム
17:30～懇親会

8月5日(日) 9:00～受付・学会賞小泉英二賞
受賞者講演・実践事例・研究発表・
ラウンドテーブル

発表申込み：2018年4月8日(日)(厳守にて)

発表原稿締切：2018年5月6日(日)(厳守にて)

(なお詳細は第2次案内にて広報いたします。)

東京は、皆様のご存知の通り、東京オリンピック
を2年後(2020年)に控え、着々と整備され、都心
部臨海部共に非常に活気のある様相を呈しておりま
す。活き活きとした東京、渋谷、世田谷、三軒茶屋
にてお待ちしております。首都として交通の便が良
く、貴重な最新の実践研究の交流の機会となります。
たくさんの方が参加し、充実した3日間となるよう
どうぞ宜しくお願いします。東京都支部会員一同。
皆様のご参加をお待ちしております。

(昭和女子大学大学院教授 総合教育センター長)



研修委員会

東京大会ワークショップ・

ラウンドテーブルについて

平成30年8月4日(土)～5日(日)に日本学校教育相談学会・第30回総会・研究大会(東京大会)が昭和女子大学で開催されます。大会に先立ち、8月3日(金)に同じ会場で第19回夏季ワークショップを行います。東京大会二次案内のワークショップの研修講座をご覧頂き、早めにお申し込み下さい。ワークショップ・中央研修会ともに講座の申し込みは先着順です。例年、2～3コースは申し込み締め切りの前に定員に達しています。申込状況は6月から学会ホームページに随時掲載致します。

研修委員会主管の研修講座は、様々な条件から検討し企画を立てています。会員の皆様の研修会アンケート、学会本部や主管支部からの要請、各支部からの希望、学校カウンセラー取得の講座などを勘案し、本学会の活動の柱である「カウンセリング&ガイダンス」に見合ったコース設定になっています。是非、研修のご希望をお寄せ下さい。

8月5日(日)の午前には、第7回ラウンドテーブルを予定しています。ラウンドテーブルは、会員から話題提供を受けて、参加された方々でそれぞれの実践を元に語り合う相互学習の機会です。学会は研修・研究の場ですが、実践家の集団である本学会では、自らの活動を報告し合い学び合うことが貴重な学習機会となります。今回は子どもたちの「貧困」や「虐待」等のテーマで検討しています。

(文責：研修委員長 渡辺 正雄)

学会誌作成委員会

本年度の投稿論文は16本でした。現在、各論文の査読が終わり、掲載予定の論文の修正をしていただき、その後編集・校正を経て6月の発刊に向けて準備しているところです。

さて、学会誌作成委員会としましては、多くの会員の方にご投稿いただき、できるだけ学会誌に掲載できるようにと考えてきております。昨年度より、従来の投稿論文の種類を見直し、①研究論文、②実践論文、③実践報告、④資料、とし、新たに③「実践報告」を設けました。これは、学校現場の先生方が実践されました事例や活動をまとめていただき

く学会員の皆様に情報提供をしていただくことが主目的です。したがって、実践の内容を重視しますので、文献研究や考察が少なくとも結構です。どうぞお気軽にご投稿いただけるようにお願いします。

また、従来通り、論文作成のワークショップを夏の大会と1月の全国研修会で継続してまいりますので、是非ご参加いただきたいと思っております。

支部理事様へお願い

学会誌の投稿数を増やしたいと思っておりますので、各支部で投稿者1名の推薦を是非お願いします(掲載保証があるわけではありません)。上記③の実践報告を中心に考えておりますが、他でも結構です。推薦者があれば、委員長までメール(投稿規定に掲載)で7月末までにお知らせください。なお、投稿方法及び審査は一般会員と同様です。

(文責：学会誌作成委員長 長坂 正文)

認定委員会

平成29年11月26日(日)に第4回「学校カウンセラー・ガイダンスカウンセラー実践研究会」をアルカディア市ヶ谷(東京)で開催いたしました。午前は昨年度に引き続き日本学校教育相談学会の会長で広島大学大学院教育学研究科付属教育実践センター教授の栗原慎二先生に「学校教育相談のこれから～予防的・開発的な教育プログラムの実践」という演題で講演していただき、午後は校種別で分科会を開催しました。参加者は小・中学校部会36名、中・高部会9名、計45名でした。参加して下さった先生方からは、予防・開発的なプログラムを実際に学校で実践していく方向性が見えてきた等の感想をいただきました。お寄せいただいた感想やご意見を今回の研究会に生かしていきます。

*「学校カウンセラー」の面接

29年度の面接は、東京会場と沖縄会場の2カ所で行います。応募者は推薦を含めて45名でした。多くの方が「学校カウンセラー」の資格取得に向けて積極的に取り組んでいる現状が見られました。

*学校カウンセラースーパーバイザー研究会

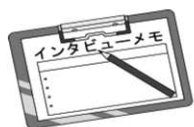
平成30年2月4日(日)にアルカディア市ヶ谷(東京)で第1回学校カウンセラースーパーバイザー研究会を開催しました。学校カウンセラースーパーバイザー制度ができて3年目になります。学校カウンセラースーパーバイザーを対象に各支部での活動の様子や成果と課題を情報交換していくことは有意義

なことだと考えます。学校カウンセラーの資質向上を目指すためにこの制度を今後どう発展させていくかは、これからの大きな課題です。

(文責：認定委員長 青木 美穂子)

先輩に聞く

「私と教育相談」 名誉会員 樺澤徹二



今回は、元広報委員会委員長の樺澤徹二先生にお話を伺いました。

1 教育相談との出会い

思い起こすと教育相談とはじめて出会ったのは、中学生時代に恩師の指導を受けた時のことです。当時は

“自分とは何か”が分らず前に進めないでいたとき、先生が「今の自分でいいんだよ。」「今の自分が、本当の自分なんだよ。」とおっしゃいました。先生が自分にしっかり向き合ってくれたこと、そして自分の内面に話しかけるようにおっしゃってくれたことが、教師を目指すきっかけでした。生徒の心に寄り添い少し先に進めるように関わられる教師を目指そうと思いました。教員養成大学で教育心理学を専攻できる大学を志望しました。大学では友人と共に優れた先生方からたくさんのお話を学ぶことができました。この時は、教育相談という用語は目にしておりません。

2 教育相談研究・研修

教員になって間もなく、勤務校の市教委が教育研究所を開設しました。教育心理学を専攻したということで、若輩ながら主任を仰せ付けられました。当時は知能検査や投影法、観察法、ソシオメトリックテスト、学習心理等を研修し、実践に生かす取り組みをしました。この頃、ロジャースの来談者中心法の理論に出会いました。人里離れた神社の宿坊で宿泊を伴ったエンカウンターグループの研修は、かつて経験したことのない体験でした。

県の教育センターで長期研修員として学校を離れて研修する機会を得ました。関係者の仲介入りをして、「教育相談技術認定」を作成しました。県教育センターの指導主事として、県下の市町村教育研究所で組織する群馬県教育所連盟の事業を通してこの事

業の充実発展に努めました。半世紀前にスタートした認定事業は、現在にも引き継がれており嬉しいことです。相談業務に携わり、「スクールフォビア」「学校恐怖症」等を主訴としたケースを担当しました。この頃設立された日本相談学会（後のカウンセリング学会）の会員となって研究大会等に参加しました。

指導主事として、関東ブロック教育研究所連盟や全国教育研究所連盟の研究会にも参加する機会を得ました。日本学校教育相談学会の立ち上げや発展に尽力された先生方とお知り合いになったのもこの時です。校内暴力や非行等の多発に伴い学校と警察の連携が求められるようになりました。県教委と県警との人事交流は対応の一つでした。私は県教委から警察本部少年課に出向し警察と一緒に、対応策に取り組みました。

校長職を拝命後は、学校の教育相談の管理運営に携わりました。県の校長会では生徒指導部会でのまとめ役に推され、県内の生徒指導・教育相談の充実

3 教育相談を“つなぐ”

退職後は関係者のお世話で教員養成大学の教育相談・生徒指導に関わる授業をする機会を得ました。教師として教育相談・生徒指導の重要性、必要性について講義しました。教育委員会主催の教師の研修会のお手伝いも依頼され、現職の先生方の実践に役立つように心がけて依頼に応えるように努めました。現在は県のスクールカウンセラースーパーバイザーとしてその任を果たしております。スクールカウンセラーと一緒にスクールカウンセラー活用事業の充実やいじめなどの重大事案への対応をしております。

4 おわりに

今日、社会の急速な変化に伴い、学校教育が対応に追われている状況にあります。とりわけ情報環境が人の心を支配している傾向が見られ、問題の解決を困難にしています。このような状況にある現在であるからこそ、教育相談の原点である「人間尊重の精神」に立ち返って諸課題を解決し将来を展望する必要があります。学校において新たな環境に適切に対応するには“不易と流行”をしっかり見据えて、学校にある潜在的な問題解決資源の活用が求められます。教育相談が強力な働きをすることを確信しています。

(文責：広報委員 小川 正人)



【沖縄県支部】 一支部活動報告一



1 学校教育相談発足から現在までの経緯

本支部は、日本学校教育相談学会の発足と同時に支部を結成しました。当時役員は、県教育センター等勤務の方々が中心になり、会員数も少なく研修なども飲食しながら和やかな雰囲気のなか、雑談形式で相談活動をスタートしました。爾来 29 年の歳月が経過し、幾多の変編を辿り今日に至っています。

その間、会員の募集、研修会の開催、会員相互の親睦会、宿泊研修、講演会、事例・研究発表会、平成 20 年九州・沖縄地区研修大会、平成 21 年日本学校教育相談学会沖縄大会、平成 28 年日本ピア・サポート学会（本支部会員が中心）などを実施しております。自己を磨き、支部活動の活性化を目指し、本部や九州・沖縄地区研修大会等にも努めて参加しております。発足当時からすると、会員数も多くなり、支部会員数平成 29 年 12 月現在（78 人）・本部（61 人）にも達し、教育相談活動も年々活発になっております。

2 研修会の充実・強化を図る

研修は、私たち会員にとって「生命」であることを認識し、自己研修を深め、こどもの健全育成に貢献し、充実・強化を図ることが肝要です。本支部は年間 3 回の研修を行い、その他九州・沖縄地区研修会、学会本部主催研修会等にも積極的に参加しています。研修を受けることによってその人が変わっていくのです。交流分析（TA）理論でも示唆しているように、過去と他人を変えることができないからです。「大人が変われば、こどもが変わる」「教師が変われば、生徒が変わる」と言われているように、研修は、自己・他者理解を深めることにより、自己成長にも繋がっていきます。

3 支部会員加入・増加の広報活動の実施

支部研修会、九州・沖縄地区研修大会、学会本部主催研修会等への文書の配布、呼び掛けを行い、参加を促進しています。年 2～3 回程度支部便りを発行し、会員に配布しております。

また研修会の時には、地元の両新聞社に論壇掲載を依頼し、会員以外の方にも参加を呼び掛けております。生徒指導・教育相談等に関心のある方は、新聞を読んで参加し入会する者もいます。新聞はインパクトが強く、研修会終了後も支部組織等について尋ねてくる方もおります。

4 支部研修会等の開催

(1) 平成 29 年度県支部定期総会・研修会

- ・日時 平成 29 年 5 月 20 日(土)
- ・会場 沖縄国際大学
- ・内容 平成 28 年度事業報告、決算報告、平成 29 年度事業計画、予算、事例研修 等

(2) 県支部夏季研修会

- ・日時 平成 29 年 8 月 12 日(土)・13 日(日)
- ・会場 沖縄科学技術大学院大学（恩納村）
- ・内容 教育の最新事情（MLA を支える理論）
- ・講師 栗原慎二 本学会会長・広島大学大学院教授

(3) 県支部研修会

- ・日時 平成 29 年 11 月 3 日(金)
- ・会場 環境の杜 ふれあい(南風原町)
- ・内容 事例研究発表
- ・講師 学校カウンセラー受験者

(4) 学校カウンセラー受験者研修会

- ・日時 平成 29 年 12 月 16 日(土)
- ・会場 沖縄国際大学
- ・内容 教育相談の理論、技法、ロールプレイ、模擬面接 他
- ・講師 瀬名波榮啓 津嘉山るり子 浅野恵美子 島田スミ子
- ・事務 神山英輝（事務局長）

(5) 県支部研修会

- ・日時 平成 30 年 2 月 18 日(日)
- ・会場 環境の杜 ふれあい(南風原町)
- ・内容 アセスの活用について、事例研究発表 他
- ・講師 神山英輝・本支部事務局長 学校現場教師予定

※ 研修会等に向けて理事会 3 回程度開催する。

5 沖縄県教育委員会への依頼及び要請

- ・日時 平成 29 年 12 月 25 日(月)
- ・訪問先 県教育庁
- ・出席者 瀬名波榮啓理事長 長浜洋平理事

・内容

①平成 30 年度スクールカウンセラーの配置について (依頼)

②スクールカウンセラーに準ずる者の待遇改善について (要請)

6 県支部便り発行 (年 2~3 回)

研修会等の時、新聞論壇掲載を依頼し 研修会への参加呼びかけ等

※ 平成 29 年度支部役員 (理事)

理事長 瀬名波榮啓 事務局長 神山英輝

事務・会計 島田スミ子

理事 津嘉山るり子 城田由勝 仲本イツ子
長浜洋平

平成 30 年 1 月 30 日

(文責：沖縄県支部理事長 瀬名波 榮啓)

第 28 回中央研修会「報告」

1 月 6 日 (土) ~ 7 日 (日) の 2 日間、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで、第 28 回中央研修会を実施致しました。研修はプレ講座「パペットセラピー」「レジリエンス」「ネットモラル」、シンポジウム「『主体的・対話的で深い学び』の実現を考える～互恵的協同性による学校作りのアプローチ」、コース別講座 7 コースです。研修会には 148 名、教育相談カフェ (交流懇親会) には 43 名の方が参加され、これからの学校教育と学校教育相談について学び、また熱心に意見交換も致しました。各研修の参加者の満足度も高く、講師の先生方からは熱心な学びへの賛嘆の声を頂きました。

来年度は、平成 31 年 1 月 12 日 (土) ~ 13 日 (日) を同じ会場で予定しています。会場での宿泊予約を増やし、参加して頂ける条件を整えています。早めにご予定下さい。以下は、コース別講座に寄せられた感想の抜粋です。

A コース「学級経営力を高めるハプンスタンス・トレーニング」

創発型学級経営は前回のシンポジウムで話題となりました。協同学習の土台をつくる指針の一つであろうと思いました。生徒の良さ、可能性を引き出す実践につなげようと思いました。

B コース「ロールプレイングを活かした学校教育相談」

とても分かりやすいお話で大変勉強になりました。

た。ロールプレイングも実際にきて良い経験になりました。(略) また、私自身、先生方の研修対応をするので、先生から分かりやすい研修の進め方も学ぶことができました。ありがとうございました。

C コース「虐待と愛着障害の理解と対応」

虐待の起こるシステムが少し分かりました。学校が見抜くのが大切ということも分かりました。しかし、校長も若返りが進み、若い教員が増え、こういった勉強に参加しないという実態があります。

D コース「セカンドステップの実際に学ぶ」

良い時間でした。感情を学ぶ教育としてはとても良く、小学校 1・2 年で学びのスキルをまずやってみたいとの思いになりました。若い先生方に伝えたい、学校区で研修できるとなると良いなあと思いました。

E コース「感覚統合の考え方を学校教育に活かすために」

たくさんの体験を通して、苦手さのある子供たちの感覚を想像することができました。その子供に合った支援を考えていくために「WHY」を考えること、その子供に合った目標を考えることの大切さを学ぶことができました。

F コース「これからの道徳教育の進め方」

道徳教育の基本的な立ち位置と、これからの授業の進め方、アクティブラーニングの手法などを取り入れることや、解決ではなく生き方の問題を問う方向にもっていくことが大切であることを知ることができました。

G コース「論文の書き方講座」

要点が押さえられており、楽しく分かりやすかったです。論文を書いてみたいという気持ちになりました。ありがとうございました。自分の言いたいことが伝わるように書く、というのが興味深かったです。日頃しないことなので、書いてみたい気持ちになった理由でもあります。もう少し学びたいと思いました。

(文責：研修委員長 渡辺 正雄)



広報委員会

今後の会報発行は、56号(本年6月20日)、57号(本年10月20日)、58号(平成31年3月20日)を予定しています。ガイダンスカウンセラー関連情報も引き続き加勇田修士先生に報告して頂きます。

また本会の各支部や中央で実施されるイベント等の情報を、無料の教育関係ホームページに掲載して、多くの皆さんに情報を提供して行きます。

(文責:広報委員長 佐藤 敏彦)

ガイダンスカウンセラー関連情報

2015年9月16日に「公認心理師法」が公布され、2018年の9月に第1回の試験が実施されます。これは心理職としての資格名(名称独占)であり、職業名(業務独占)ではありません。保健医療、福祉、教育、司法、産業などの分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる①～④の行為を行うことを業とする者です。①心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析する(例:アセスメント)②心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う(例:カウンセリング)③心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う(例:コンサルテーション)④心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行う

(例:予防開発的心理教育)

5年間の経過措置があり、現任者(教育相談の担い手)は「公認心理師現任者講習会」を受講することによって受験資格が得られます。しかし、募集定員に対して受講希望者が多すぎて受講できない現状を打開するために、日本スクールカウンセリング推進協議会としては、ガイダンスカウンセラーのための「講習会:4月21・22・28・29日の4日間」を開催することになりました。

詳しくは推進協議会のホームページを参照してください。

(文責:ガイダンスカウンセラー

名誉会員 加勇田 修士)

災害被災者支援委員会報告

平成 29 年度石巻市内の学校支援について以下のよう
に実施しました。

(1)石巻市立向陽小学校(29年度3回目)

①11月6日 15:00~16:30

②事例検討(短縮事例法)の研修

③小学校の連絡担当者 木村先生

(2)石巻市立河北中学校(29年度3回)

①宿泊研修エンカウンター 5月16日
18:30~20:00 実施済

②12月8日(金)13:30~14:30

エンカウンター「新聞タワーゲーム」

③2月9日(金)13:30~

④中学校の連絡担当者大石先生。次年度も研修
をやってほしいとの要望が出ています。

(3)気仙沼市立大島中学校

①年度内に1回実施

②実施予定日 平成30年2月23日

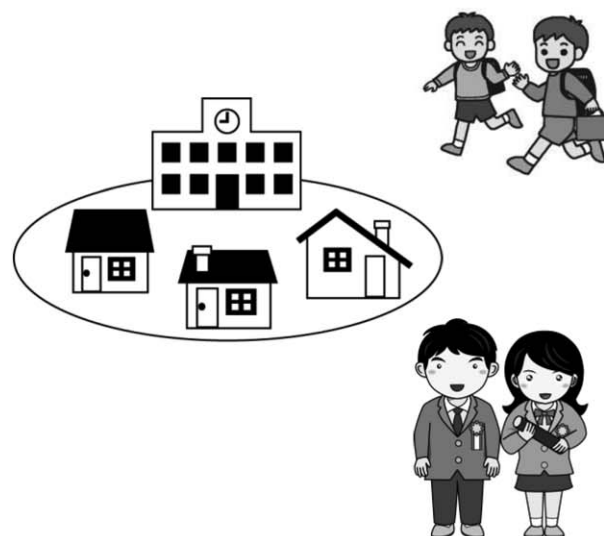
③学校からの要望で「自殺防止対策」について
講演・事例検討を行う。

④時間があれば個別相談の実施

(4)次年度に向けての提案

石巻市立河北中学校の校内研修と不登校対策に絞って活動を進める予定です。出前研修・個別相談・不登校対策等になりますが、教育委員会や河北中学校との話し合いを継続して、学校のニーズに沿う形で進めていくことが大事であると思います。

(文責:災害被災者支援委員会委員長 砥柄 敬三)



会長コーナー

公益法人化の目的

昨年の夏、「公益法人化の方向で検討を進める」ことが決まりました。現在そのために、役員会として活発な活動を続けています。今日はなぜ、公益法人化をしようとしているのかについて、骨子の部分をお伝えします。

学会にはいろいろなミッションがあります。研究活動や研修活動はその中核ですが、それは教育相談の普及と啓発という実践活動のためでもあります。会長として私は、この学会の研究、研修、実践の各活動の充実に取り組み、少しずつ前進していると考えています。

一方で、本学会の会員の高齢化の進行とともに、会員数は約 3500 人から 2300 名へと減少、活動が成立しない支部、解消に至る支部が出てきています。会員減が会費収入減となって活動に影響を与えています。この状況にどのように終止符を打ち、学会としてのパワフルな動きへと転換を果たすのか、それが今の課題です。

その鍵はどこにあるのでしょうか。本学会は、教育センターでの研修受講者が会員化することで今の学会に成長してきました。しかし、「教育相談は SC や SSW に」という流れが生まれ、教育センターでの教員対象の講座が激減しています。つまり、教員が教育相談を学ぶ機会がないわけです。知る機会がなければ入会者が増えないのも当然です。

ではどうすればいいのでしょうか。役員会では、本学会が教育相談を知る機会を提供すればよいと考えています。それと公益法人化の関係ですが、実は公益法人化すれば、教育相談で教員免許更新講習を学会として開設することが可能になります。一般法人の場合は開設が許可されません。つまり、公益法人化することで、私たちが信じ実践してきた教育相談を日本の先生方に届けることができるようになります。公益法人化を目指している理由は、実はそこにあります。

学会の法人化自体は時代の流れで、いずれ本学会も法人化をすることになるでしょう。ならば一般法人ではなく、透明性も高く、社会的信頼も高く、免許更新講習も開設できる公益法人化を果たそう、そして日本に教育相談を広げよう、と考えているわけです。

(文責：会長 栗原 慎二)

事務局より



平成 30 年 1 月 8 日に行われた役員会で、報告・協議された概要は以下の通りです。

- 公認心理師関連では、「本学会員が公認心理師になれるのか」という情報を提供していく。
- 学校カウンセラーやガイダンスカウンセラーの資格を取得・継続することが、今後の我々を生かす道でもあり、学会としても、支援をしていく。
- 学会本部の法人化について、具体的な課題が出たので、細部を検討していく。また、会員への周知を図っていく。
- 特別委員会の委員の承認。
- 専門委員会等からの報告。
- 学会誌の採択率を上げていくために、研究論文・実践論文・実践報告・資料を作成する会員への支援を工夫する。

(文責：事務局長 梅川 康治)



第 55 号編集後記

新広報委員長となり気持ちも新たにしています。広報活動を通じて皆様に役立つ情報発信をして行く決意です。イノベーションが叫ばれている現在、子どもたちを囲む教育環境を見直し、新たな提言や発信ができる教育相談が求められています。今回の会報 55 号のなかで、執筆の皆様への熱い思いを読み取って頂ければ幸いです。

(文責：広報委員長 佐藤 敏彦)

日本学校教育相談学会会報

第 55 号

平成 30 年 3 月 20 日発行

発行 日本学校教育相談学会

会長 栗原 慎二

編集 日本学校教育相談学会広報委員会

委員長 佐藤 敏彦

事務局 〒179-0073

東京都練馬区田柄 3-11-28

日本学校教育相談学会事務局

電話/FAX 03-3926-7386

HP <http://www.jascg.info/>